







上山高原のススキ草原復元のために伐採した雑木を白炭にしている炭焼き小屋。白炭は上山高原ふるさと館で販売している。



郷土芸能である「海上傘踊り」は、江戸末期に始まった雨乞いの踊り。鳥取県から伝わったとされるが、踊りも歌も独自に発展を遂げている。小学1年生になると教えられ、村の男性は誰でも踊ることができる。切れのあるダイナミックな所作は見応えがあり、傘に付けられた鈴の音が小気味よい。海外公演も行っており、フランスのニースではアンコールが起る盛況ぶりだったそう。現在は8月14日のお盆に披露される。

周囲を700～900メートル級の山々に囲まれた海上。

但馬牛の多頭飼育がされている畜産農家の牛舎。立派な黒毛和牛が飼育されている。

至上山高原・小又川溪谷

### ●「裏路地探険」に参加してみませんか!!

平成25年7月13日(土) 10:00～12:00

「長寿の水を訪ねる」豊岡市竹野町羽入(はにゅう)

\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。



今では珍しくなった但馬牛の家族飼育。



小又川溪谷は集落の上流にあり、県の名勝に指定。大小数多くの滝が点在し、中でも僧侶が修行したとされる「シワガラ」の滝(写真)や、落差35メートルの「桂の滝」は美しい姿で知られる。植物や昆虫の化石も多く出土し、歴史的にも珍しい場所である。

を守ったそう。最盛期には40人も  
の杜氏と蔵人がおり、現在も4人  
が但馬杜氏として活躍している。  
村の主な産業は米作り。小又川  
溪谷沿いに20町歩の棚田が広がっ  
ている。トラクターなどがない時代は、  
どの家でも1頭は役牛を飼い、玄  
関横の母屋に1年1産の子牛とと  
もに愛情をかけて育てられていた。  
名和牛「但馬牛」の原点であるこ  
の光景は、農業の機械化により多  
頭飼育へ変わり、海上でも家族飼  
育は1軒を残すのみとなっている。  
海上の棚田は溪谷の清水と寒暖  
の差の激しい気候により、美味し  
いお米が穫れる。棚田米「うみや  
なあ」として人気を得ている。  
平成21年には県が推進する「小  
規模集落元氣作戦」のモデル集落  
に選定され、地域活性化を検討。  
2年前には交流拠点施設として  
「うみがみ元氣村」をオープンさせ  
た。地元のお母さんが作る郷土料  
理や農産加工品を直売し、地域の  
人や上山高原を訪れる人の交流  
の場として常に笑顔が絶えない。  
時が止まったかのような風景に  
出会える海上集落。のどかな環境  
が人を作るのか、海上の人たちは  
みな気さくな人ばかり。「もう1  
度訪れたい」と思える村であった。

～共に生きる  
この街を元気に～

 但馬信用金庫



たけの海上花火大会(豊岡市)